

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームポインタ
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	鹿児島県阿久根市赤瀬川4295
記入者名 （管理者）	森田 さおり
記入日	平成 19年 7月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域と事業所の関係を大切にし、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境作りが出来るような理念を作り上げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者の方一人ひとりがその人らしく毎日を暮らせるように、毎日のミーティングで話し合い、又ケアについても意見の統一を図っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域住民の方と懇談会を持ち続けており、事業所の理念、役割を説明している。ホーム便りに理念等を載せ配布している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方の集まり、散歩、買い物等で顔見知りが出来、穏やかな表情で声をかけてもらい、挨拶が出来ている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事、お祭りに積極的に参加し、又婦人会等に参加している。地区の学生の体験学習を受け入れ、保育園児にホームの行事に参加してもらったりと、地域との交流は持てている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム便りで、認知症の理解や説明等行なっている。又人材育成の貢献として、実習生の受け入れも行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価のねらいを全員に伝え、自己評価を全員で行なっている。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けての話し合いをし、取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告と、取り組み内容に意見、要望をもらい、改善に向けての取り組みを行なっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2年前にホームでの行事に介護保険係長や、職員を招待し、ホームの活動状況を見てもらっている。	○	今後もホームの行事等への参加を呼びかける。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員へ資料による説明を行い、理解を深めてもらっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が入所者の立場に立ったケアをしている。又資料を配布し、職員に説明している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には利用契約書及び、重要事項説明書を用い、時間をとって家族に説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々入所者意見等を聞くようにしており、速やかに対応し、サービスの改善に役立てている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	遠方の家族には、日常の本人の様子等を毎月報告している。家族会を定期的で開催し、ホームでの出来事、個々の様子を報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方との関係作りを大切にし、面会時に家族の思いを聞き出すようにしている。出された意見はミーティングで話し合い解決に向けている。重要事項説明書にて不満、苦情等の受付、責任者、第三者機関等を電話番号と共に明示し、ご家族に伝えている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、学習会で聞くようにし、意見、提案を反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況に合わせた職員のローテーションを組んでいる。必要に応じ柔軟な職員の配置を考慮している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりはほとんど無く、馴染みの職員がケアにあたる事が出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職員同士で学習会を行っている。研修は積極的に勧め自己啓発している。研修報告は発表してもらい、報告書はファイルし全員が見れるようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出水地区のグループホーム連絡協議会に参加し、事例検討、意見交換を行いケアに活かしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の健康、精神面に気を配り、職員同士の人間関係を把握したりしている。職場内の親睦会の機会を設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向け積極的に応援、支援している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の生活状況を時間をかけ確認し、又本人、家族の思い、希望を確認し、初期のケアプランに繁榮し、実践している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労等時間をかけ聞くようにしている。入所後の不安、希望等も受け止め、家族との信頼関係を築くよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、本人の状況等を確認し、改善に向けた支援の提案をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所者に家族と一緒に見学してもらい、本人に納得して頂ける様に、家族と相談しながらすすめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の大先輩であるという認識を職員が共有している。ことあるごとに、生活の知恵、技を学ぶことが多い。それぞれの方が活躍出来る場面を工夫、セッティングしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日頃の様子、本人の思いを家族の面会時や手紙で伝え、本人を支えて行く為に、情報交換を密に行うことで協力関係を築いていく様に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族の状況を見極めながら、外泊、外出等で本人と家族と一緒に過ごせるように進めている。又行事に家族を誘って思い出作りをしたり、本人と家族の絆を大切にするよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、親戚の方たちに面会を勧めたり、本人や親戚の家に行ったりし関わりが途切れないように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員全員が入居者同士の関係を把握している。気の合う人と一緒に過ごせるように座席の配置を調整し、楽しく過ごせる様な場面を支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても、入居者と一緒に会いに行ったり、行事に誘ったりし、関係の継続を意識している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけ、把握に努めている。言葉で表現し難い方は、その方の行動を見て情報を得るようにしている。不可能な場合は、家族に連絡し情報を得ている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを利用し、家族やサービス担当者に聞くことで情報を集めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員が、利用者の全体像を把握している。職員間での情報交換を密に行い、一人ひとりの生活、心理面等を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員でケアプラン、モニタリング等カンファレンスの中で意見交換を行い、家族の思いや、意見、要望を反映させるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見、要望を取り入れ、期間が終了する前に見直しをしている。状態の変化が生じた場合、その都度見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に個人記録、カードックス等を理解し、身体状況、生活状況を知ることが出来るようにしている。これらを基にし、ケアプランの見直し、評価につなげている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的に通院の送迎、個々の外出の送迎はホームで柔軟に対応し、個々の自由を楽しんでもらえるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域生活を継続するために、地域団体、民生委員、区長等とのつながりを大切にしている。警察、消防署等とのつながりを持つように努めている。	○	地域の団体の活動等へ積極的に参加が出来るよう働きかけていく。又地域の要請に積極的に応えていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望、体調に応じて、訪問美容サービスを利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在地域包括支援センターとの直接の関わりはないが、成年後見制度等必要になった場合は、協力し利用が出来るよう支援していく。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の方が希望するかかりつけの医療機関にて受診している。受診及び送迎はホームで行い、診療結果は家族へ伝えている。緊急の場合は、家族同行の受診を勧めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医の受診をしている。適切な指示、助言をしてもらい、家族も安心し、色々と相談しやすい。複数の医療機関と関係を結んでいる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に入居者の健康状態、状態変化に応じた支援を行なえるようにしている。24時間の対応をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐために、面会に行き刺激を与えるようにしている。医療者と面談し、早期に退院が出来るよう働きかけをしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より終末の話をし、家族の思いを聞いている。重度化した場合に、事業所が出来る最大のケアについて説明している。状態の変化毎に家族の気持ちを聞くようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い、入居者が安心して終末期を過ごせるように準備に取り組んでいく。急変した場合は、すぐ対応が出来る医療機関と連携を図り、対応する。	○	主治医の協力で終末期ケアを支援できる体制作りをしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプラン、支援状況等渡し情報交換を行う用意はある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導時、耳元で確認したり、さりげなく声かけし配慮している。ミーティングや勉強会で日々の関わり方を検討したり、職員の意識の向上を図るようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で衣類の選択、食事のメニュー等本人が決める場面を作り、本人に主体性を持てるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの、1日の過ごし方、過ごす場所は本人が決めている。極力全員で食事を摂れる様努力をしているが、本人の意向に合わせ、本人のペースに合わせている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の更衣は本人の意思で選択し行なわれている。特に女性はおしゃれする気持ちを忘れないようにと願い、一緒に衣類の選択、身だしなみを行なっている。2ヶ月に1度の美容師のサービスも受けている。本人の希望があれば、馴染みの美容室への送迎も行なっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食のメニューは入居者に声をかけ決めるようにしているが、声が上がらない場合は職員が提案し決定権は入居者が持っている。食事作り、味見、盛り付け、食器洗い等の場面作りを行なっている。職員も同じ食事を摂り、楽しく食事が出来るよう雰囲気作りを行なっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物に行き、それぞれの方が好みのものを買って、飲食を楽しんでいる。お酒を好む方は、本人の状況で飲酒を楽しんでもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意の無い方もトイレ誘導をし、トイレで排泄が出来るように支援している。オムツを利用している方の排泄パターンを把握し、オムツを外せる様に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めており、日中に行なっている。本人の希望等があれば柔軟に対応している。入浴を拒む方には、時間経過で誘ったり、職員を替え声かけしたり、気持ちよく入浴できるように支援している。入浴時、互いのコミュニケーションを図るため、じゃんけん等で順番を決めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の生活リズムを整えるようにしている。一人ひとりの表情、体調等を考慮し休息を促したり、希望時休憩できるように援助している。又昼夜逆転しないように努めている。不眠の方は、おしゃべりしたり、飲み物を勧めたり、本人が就寝するまで見守っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が活躍出来る場面作りをしている(筍、つわの皮むき、園芸等)持てる力を発揮できるように努め、メリハリのある日常生活が送れるように努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理の出来る方には、財布を持ってもらっている。困難な方には、買い物時にお金を渡し、レジで支払えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望、体調、天気を考慮しながら、散歩、買い物、ドライブ等に出かけている。又外食、喫茶店に行ったり、お弁当を作り、公園、海等家族を誘って出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたい所へは、ホームで予め予定を立て希望に添えるようにしている。場合によっては、家族に相談し、協力をお願いしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の申し出により、電話での取次ぎをし、入居者が自ら家族等へ電話している。入居者の希望を取り入れ、日常的に電話、手紙を出せるように支援し、本人、家族等のつながりを大切にしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	外部からの訪問は大歓迎している。訪問時に話をし易い場所を提供し、気兼ねなくゆっくりと過ごせるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、日々の申し送りで身体拘束をしない介護法、工夫を話し合っている。身体拘束に類似していないか等、全員で検討している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームはオープンにし玄関、テラス等は開放している。日頃目配り、気配りに心がけている。出かけたい方は、職員が同行し気分転換をしてもらい、自由な暮らしが出来るように支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は共有室で記録等行い、誰が何処にいて、何をしているか全体状況の把握を行い、安全の確保に努めている。又夜間は24時間体制で、定期巡視、不定期巡視を行い様子を観察し、入居者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	浴室の未使用時の施錠、薬棚の施錠、ガスコンロのロック等、個々に問題を予測して取り決めをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状態から、予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐ為の話し合い、工夫に取り組んでいる。又万が一に事故が発生した場合は事故報告書を作成し、早急のカンファレンスを行い、事故の原因、改善策を話し合い、家族に説明と報告を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に応急手当、蘇生術の実技を行なっている。又応急手当のマニュアルを作成し、全職員が周知している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て、避難訓練、消火器の取り扱い方等、近隣の方も一緒に行なっている。協力体制については、近隣の方に協力をお願いしている。	○	消防計画に基づいて、定期的に避難訓練等を行なっていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者一人ひとりに起こり得るリスクは、家族に説明している。行動制限しないように、本人の行動を見守っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの普段の状況を職員は把握している。通常のバイタルチェックに加え、変化時はバイタルチェックを行い、記録に残し、必要時は臨時受診を行なっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋をファイルし、いつでも職員が見れるようにしている。職員は、個人の服薬の目的、副作用等理解している。正確に服薬が出来るように確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は、便秘が及ぼす影響を理解し、食品の選択、多飲水を促し、適度な運動をする機会を設け、自然排便を促している。緩下剤を服用している場合、緩下剤を調整し排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔内の清潔を促し、又必要な方は介助を行なっている。就寝時は義歯を除去し、洗浄剤を使用し保管箱におさめている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎日チェックし記録している。管理栄養士により、毎月1週間のカロリーを算出し、大まかな栄養摂取量を把握している。義歯のない方は、咀嚼し易いように調理の工夫を行なう等、柔軟な対応をしている。	○	ホーム内でカロリーチェック及び栄養バランスのコントロールが出来るように、食事委員会を設置し進めるようにしていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する取り決めがあり、インフルエンザの予防注射を行なっている。職員の出勤、外出、入居者の外出、外来者の方には必ず手洗い、うがい、介助毎に手洗い等を励行している。感染症に関するマニュアルを作成し、文献等で学集会を行なっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきんは毎晩殺菌消毒を行い、又調理前には、流水で手洗いを行なっている。調理道具は、使用前に、洗い流して使用。食材は、必ず賞味期限を確認し調理を行なうなど、調理場の衛生には注意を払っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近接住居があり、木造建物で、手作りの表札が掲げられ、家庭的な雰囲気になっており、気軽に入りやすい玄関となっている。玄関にスロープを設け、ホールとの段差の無い構造としている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は外の光が最大限に入る作りになっている。照明は入居者に聞きながら調整し、窓を開放し換気を行なっている。食中はテレビを消す等、入居者が居心地よく過ごせるように、職員が常に注意を払っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方が、自分の落ち着く場所を作り、思いのまま過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に馴染みの物を置いてもらえるように協力を得たり、職員と共同作業で作った季節感のあるカレンダー、誕生日の写真、メッセージ等でその人らしく安心して過ごせるように部屋作りを配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気の必要性は全職員が認識している。入居者に聞きながら、各居室、共有室等は窓を開け換気している。室温計を置き、温度調節等行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に応じて、居住環境の安全確保へ配慮し、改善に取り組んでいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋の表札は、本人の目線に合わせてたり、トイレは「便所」と表札をし混乱が起きないように配慮している。本人の不安となる材料等職員と話し合い、本人が出来るだけ自立が出来るように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周辺に広い庭、畑があり、入居者が活動しやすい作りになっている。又広いベランダを設け、日光浴、食事等多目的に利用している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

食事や、入浴、レクリエーション等通して、日々笑顔のある暮らしを実践している。

入居者同士が、お互い助け合えるような雰囲気作りをしている。

入院をできるだけさせない為に、日頃の入居者の身体、精神状態を持続できるよう支援している。

開放感があって、ゆったりと落ち着いて過ごせる造りになっている。